

平成 22 年度第 1 回中原区区民会議課題調査部会での意見等

1. 区民の防災意識の現状把握

●「防災の備えをしましょう。」という呼びかけに対してどれ位の方が実際に準備しているか知る必要がある。

●「避難訓練にはどの位の参加者があるのか」「どのような訓練をしているのか」実施状況について把握する必要がある。

⇒上丸子小学校避難所運営訓練、中原中学校避難所運営訓練、なかはら子ども未来フェスタでの調査を基に区民会議としての対応を検討する。

2. 防災訓練の実施

●訓練は、実施している自主防災組織と実施していない組織と差があり、まだ十分とは言えない。自主防災組織を活発にしないといけない。

●どのように一般の人を避難訓練に参加させるか、どうしたら子どもに参加してもらえるかなどを考える必要がある。

●現在、避難訓練に参加していない人、または参加の声掛けからもれている人を、どのように訓練に参加するよう呼びかけていくかが課題である。

●住民への呼びかけが徹底していない部分もある。その結果、新しい参加者は少ない。町内会の役員だけで実施しているところもある。呼びかけ方などを区民会議で考えてもよいのではないか。

●図上訓練（DIG）を行ったが非常に良い内容であった。子どもと大人が地域の問題点を一緒に考えていくという新しい形であり、防災訓練にも色々なスタイルがあることが分かった。

3. 防災意識の向上

●区民の防災に関する意識を上げる工夫が必要である。

●防災の意識を高めることは必要であるが、自助の観点で「自分の身を自分で守るために何が必要か。」そのことを考えてもらう必要がある。

●自分で備えられるものは自分で備えるという気持ちを促す必要がある。

●「ぼうさい出前講座」を委員の出身団体など各所で行ったらどうか。

●平成 23 年度の子育てサロンの計画をこれから立てるので、総務局危機管理室の「ぼうさい出前講座」を子育て中のお母さんに向けて実施することを提案していきたい。

●防災活動を活性化していくためには、啓発活動が大切である。本日、配布された「備える。かわさき（ポータブル版）」など便利な啓発物がある。目にすることも必要であるが、耳にすることも必要であり、多くの人に説明していく、また、呼びかけしていくことが必要である。

●防災に関するチェックシートを区民会議で作成し、各家庭に配って啓発したらどうか。

4. 防災情報の発信

●「自分の避難所が何処か」を知らない人が多くいると思う。自分達の避難所なのか知らせていく必要がある。

●若い世代の方は、携帯電話やインターネットを使って情報を入手することに長けているので、そのような手法を使って情報発信したらどうか。